産業建設常任委員会　意見交換会報告

去る１０月１５日開催の、一般社団法人白山野々市建設業協会との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は白山野々市建設業協会の北野会長をはじめ、９名の役員の皆様が出席され、今年２月の豪雪を踏まえ「白山市における除雪体制について」というテーマで、意見交換を行いました。

一般社団法人白山野々市建設業協会は、平成１７年７月に社団法人鶴来地方建設業協会を改組し、新会員加入により発足しました。会員は、白山市、野々市市の８４社が加盟しております。

建設業界の現状として、若手入職者の減少や労働者の高齢化といった、構造的な問題が顕著に表れており、今年２月の豪雪における除雪業務においても、ほとんどの会員企業が不眠不休で対応したということです。

それでは、今回の意見交換会で出された主な意見を述べさせていただきます。

１点目、一定以上の降雪予想が出た場合の、除雪待機についてであります。

県では降雪予想が出て待機指示を出した場合、機械の台数やオペレーターの人数等を基に除雪待機料を支払う制度を設けていますが、市ではそのような制度がないため、円滑な除雪体制を構築するためにも、県と同様な除雪待機制度を創設してほしいと意見がありました。また、除雪機械やオペレーター不足への対応を図るため、市の固定費を県と同額に近づけてほしいとの意見もありました。

２点目、効率よい除雪のためにということで、有効な除雪機械の稼働のために、国道や県道、市道を縦割りではなく、エリアで区分してできるような体制にならないかと意見に対しては、これまで議会や議会報告会でも同様の意見が出ており、そのとおりだという意見や、行政の業務量が膨大となるため、エリア区分は

無理だと思うが、行政側が市と国・県との連携を密にする必要があるという意見がありました。

３点目、委員から除雪作業時の写真撮影に関し、課題等はないか質問したところ、山ろく部と平野部では除雪回数の違いがあるためか、白山ろくでは月に１回、また平野部では毎回、作業写真の撮影が必要であることなど、統一感がないことや、撮影のため除雪作業を中断しなければならず、効率が悪いという意見がありました。委員からは、機械にカメラを設置するなど、改善する必要があるのではないかという意見がありました。

４点目、生活の多様化により、住宅の近くや狭い町内を深夜に機械除雪することが、もはや時代遅れではないか、また、地下水を活用した消融雪装置は、天候によりセンサーが働き、均一な消融雪ができていないとのことから、本市の水の豊かな地域性を生かし、農業用水等を活用した消融雪を整備したらどうかという意見がありました。

５点目、薬剤散布について、本市では雪が降る前に凍結防止剤が散布されていますが、今回の大雪では、道路の圧雪がひどい状況であったので、圧雪を溶かす薬剤も導入してほしいという意見がありました。また、国道や県道の圧雪もひどかったため、市から国・県にも散布を働きかけてほしいとの意見もありました。

最後に、除雪は冬期間の安全・安心な市民生活にとって、なくてはならないものであり、今年の豪雪を踏まえ、官民協働での効率的な除雪体制の確立や、日ごろから雪害に備える意識醸成の必要性を感じました。